

委員派遣実績報告書

令和5年11月17日

米子市議会議長様

総務政策委員会

委員長 渡辺 穰 爾



委員派遣を行い、所管に属する事務に関する先進地事例について調査を行いましたので、下記のとおり報告します。

記

委員会名	総務政策委員会
期 日	令和5年11月6日から令和5年11月8日まで
視 察 先 及び視察 内 容	11月6日(月) 神奈川県秦野市 調査項目：秦野市総合防災情報システムについて 11月7日(火) 埼玉県本庄市 調査項目：本庄駅北口周辺整備基本計画（「ウォークアブルなまちなか」）について 11月8日(水) 埼玉県さいたま市 調査項目：DXの推進に係る行政サービスの向上・高度化について
参加者名	【委員長】 渡辺穰爾 【副委員長】 吉岡古都 【委員】 伊藤ひろえ 稲田 清 国頭 靖 津田幸一 森谷 司 【随行】 議会事務局庶務担当 係長 田中紀江
経 費	528,460円
委 員 会 所 感	別紙のとおり

総務政策委員会行政視察報告

1 令和5年11月6日 視察先 神奈川県秦野市

「秦野市総合防災情報システムについて」

(1) 視察の目的

防災は普段からの備えが大切である。秦野市では防災に対し、市で総合システムを導入され運用されている。市民に現在、自分の住んでいるところは今どうなっているか、この秦野市総合防災情報システムに接続することで把握したり、伝える市職員もスマートフォンで現場の災害情報を入力したりと、今現在の災害状況を把握し更新できるシステムを導入された先進地を視察させていただくことは、今後本市としても同じ、または違ったシステムを将来的に導入を考えていくうえで参考となる。

(2) 視察（説明）要旨

災害による被害状況や避難所の混雑状況、道路の通行止めなどの災害状況を、スマートフォンやタブレットなどから確認できるもので、リアルタイムな情報を通じて避難が必要な方の主体的な避難行動を最大限支援するもの。どのような情報が見えるかについては、

- ・ 自宅や現在地の浸水想定区域や土砂災害警戒区域をマップ上で確認
- ・ 河川情報や気象庁データ（土砂キキクル）による土砂災害の危険度をリアルタイムに確認
- ・ 土砂災害や浸水害、道路冠水等による通行止めなどの被害情報をリアルタイムにマップ上に公開
- ・ 避難所の開設状況や避難者数を記号や色別で分かりやすく表示し、全ての避難所の状況を一括して確認
- ・ 土砂災害や浸水害により避難情報を発令した地域を、1キロごとの格子で色付け、避難対象地区を表示
- ・ 停電や断水などの発生範囲を編みかけて表示
- ・ 台風情報や防災情報などの市からの情報を発信

市の総合防災情報システムにアクセスするには市のホームページや市公式LINEやシステム専用のQRコードからアクセスできるようになっている。

(3) 主な質疑応答

Q1. システム導入の経緯はどのようなか。

- A1. R2.6 市内業者ほか2者と河川水位等観測に関する連携協定を締結
市内3か所に水位計を設置 無償(2年間)その後市に譲渡
- R3.4 ハザードマップに想定のない区域に設置
市内4か所に水位計を増設(予算化) 県費対象9,519,180円
- R3.9 激甚化する自然災害と新型コロナウイルスの影響により、避難の在り方を検討
災害情報の「見える化」について、上記契約業者と仕様の検討を開始
- R4.7 秦野市総合防災情報システム運用開始
国費(デジ田)4,342,800円
水位計7機(実験機含む)市が運用開始
県費対象2,269,300円
- R4.7~ 職員向け操作研修7回(非常配備対応課)
高齢者向け操作研修12回(65歳以上対象)
ほか民生委員、自治会など多数開催
- R5.4 秦野市総合防災情報システム長期契約に切替
国費(デジ田)3,476,000円
システムの維持管理及び水位計機能一本化 県費対象 5年間同額
機能拡充を踏まえた5年間の長期契約
- 現在 機能拡充の開発及び実災害運用後の検証
5年先を見据えた、更なる機能拡充の意見交換

Q2. 今後として

- A2. R5 気象庁雨雲データのマップ反映、物資管理機能の追加
- R6 避難者情報の事前登録、避難所入退所のQRコード機能追加予定
- R7 以降 避難者情報の事前登録、避難所入退所のマイナンバーカード機能の追加予定
避難行動要支援者の避難行動確認システム追加予定(市職員機能)

Q3. ランニングコストはどうか。

A3. 年間約170万円が水位計及びサーバの管理・通信費となっている。

Q4. 避難所の通信環境について

A4. 現在、広域避難所には、スマートフォンを配備している。

大規模災害時には広域避難所がフリーWi-Fiとなることから、情報の把握や提供は可能と考えている。

(4) 視察の（説明）要旨に対する考え方及び本市に参考となる点

システムを構築された経緯から逐次、開発業者さんと更なる機能追加を図られており、また市民に向け、職員に向け研修をされ、市民への周知に努められており、また国や県の助成を受け、市の持ち出しを抑えておられ、全てにおいて一からこれをつくりあげるのは大変だが、システムを安価に提供いただけるのかなど、どこが特に必要か等、今後精査も必要だが市民の為になるシステムと感じた。今後市にも情報提供しながら今後の秦野市防災の進化も参考にさせて頂きたい。

2 令和5年11月7日 視察先 埼玉県本庄市

「本庄駅北口周辺整備基本計画（「ウォーカブルなまちなか」）について」

(1) 視察の目的

「居心地が良く歩きたくなるまちなか」を目指して

令和4年度は本庄駅北口周辺まちなかウォーカブル推進調査業務「本庄駅北口周辺整備基本計画」において“ウォーカブル推進道路”と位置付けて、銀座通り・三交通り・駅西通りの3路線を活用し、本庄駅北口周辺地区における「ウォーカブルなまちなか」について、検証している。月に1度マーケットを開催し、来場者や出店者、沿道の店舗へアンケート調査を実施するなどして、基礎データを収集し、課題を整理している。また、この結果を受け、次年度以降に必要となる取組等の提案を受けることを目的としている。この実績を踏まえての今後についての取組等、本市の参考としていきたい。

(2) 視察（説明）要旨

- ・ ウォーカブルの舞台をまちの玄関口の駅北口周辺に決めた。その理由は夏、秋祭りのほか大型商業施設、金融機関、公共施設、歴史的・文化的資源がそろった「まちの顔」であるためである。
- ・ 駅北口周辺は、江戸時代中山道最大の宿場町「本庄宿」、明治・大正は繭のまち本庄町、昭和は商店街がにぎわっていたが平成に入ると商店街はシャッターが下がり始め人口減少、空き家、空き地でにぎわいの喪失となった。
- ・ まちなか再生を重点に置いた計画を実施し、中山道の電線類の地中化、地籍調査の実施、まちなか活性化のNEXT商店街プロジェクトの実施、そして令和4年から本庄駅北口周辺整備基本計画策定した。
- ・ 電線類の地中化、地籍調査の実施、商店街プロジェクト等を行政が行い、新規出店、なかまちマーケット、店頭の復活などを民間が行う、官民連携でのにぎわいのサイクルづくりにウォーカブルを取り入れ加速化させる仕掛けづくりを展開している。

- ・ 令和5年度は「駅周辺まちなかウォーカブルエリア等検討業務」を実施し道路空間を活用した社会実験を11月末に銀座通り12月・3月と選定地域で行い、今年度末に結果が報告される。
- ・ 今後は埼玉県の支援を受けながら民間企業との連携によるデジタルの導入を行い「まちなかを空間(スペース)から居場所(プレイス)へ」とウォーカブルも展開していく。

(3) 主な質疑応答

Q1. 地域社会を巻き込むためのコミュニティ参加型のプログラムやイベントがどのように行われているのか。

A1. 主な事業として、

- ・ ほんじょうマルシェ実行委員会（イベント部会）…まちなかのにぎわい創出に向け、公共施設や空き店舗を活用した民間主体のマルシェを6回開催。現在は、地元商店街団体と連携し、本庄七夕まつりやハロウィンイベントを開催。
- ・ リノベーション部会…空き店舗を活用した1 day shopを約3か月稼働したほか、プレイヤー発掘のためのワークショップ「本庄暮らし会議」を開催。
- ・ 本庄まちゼミ実行委員会…商店街の店主が講師となり、自身が持つ知識やノウハウを少数者形式で客に伝えるコミュニケーション事業「まちゼミ」を官民連携で開催。
- ・ 本庄MEET & TALK…ゲストスピーカーを招き、情報を共有、交換する場として開催。企業等のきっかけや人脈づくり、ノウハウの提供などを目的に令和3年度より実施。

Q2. 独自性について

A2. 本庄駅北口周辺におけるまちづくりにおける独自性、ほかに類を見ない点としては、北口地区におけるまちづくりの検討の段階から、「まちの使い手」の視点が含まれている点ではないかと考えている。昨年度より実施しているウォーカブルに係る事業を受託しているのは、同地区に拠点を構える「合同会社本庄デパートメント」という事業者で、北口に魅力を感じ、市外から移住してきた若いお二人が、空き店舗をリノベーションしたカフェを銀座通りに開業し、カフェ事業のみならず、地域の活性化に向けた様々な事業を展開している。ウォーカブル推進に係る事業では、地域の空き店舗や空き地を活用した社会実験を実施するなど、これまでの行政主導の、まちの使い手不在のインフラ整備が先行するまちづくりではなく、その検討段階から「まちの使い手」が関与している点が、本市の特徴である。

(4) 視察の（説明）要旨に対する考え方及び本市に参考となる点

- ・「本庄駅北口周辺整備基本計画」(ウォーカブルなまちなか)を視察し、米子市と同じ課題の少子化、他県などへの移住による人口減少、高齢化や空き家、空き地でまちなかのにぎわいが喪失したことで、利便性と歴史・文化の駅北口をターゲットにして官民でにぎわいサイクルを加速させ、新たなトレンド「ウォーカブル」を取り入れた仕掛けづくりの説明を受け、現地の駅北口を見学した。
- ・以前は料亭であった店舗をリノベーションしてカフェをされている店舗があり盛況であったが、ほかのリノベーション店舗や狭隘道路の対策等があまり見当たらなかった。
- ・まちなかのにぎわいについては自動車中心であり、ウォーカブルの取組となる仕掛けについては、あまり見受けられなかった。
- ・空き家を解体し空き地にした私設公園、本庄銀座「GOOD PARK」をイベント等で活用できるよう、樹木や花などは運搬可能にしてあり、にぎわいの場として活用されている。米子市でも空き地の利活用を検討していくべきと感じた。
- ・官民でイベントを開催して地域住民を巻き込んでおられ、その中に高校生などの若者のスタッフを入れて意見やアイデアを取り入れて、駅北口のにぎわいづくりをされている。米子市のにぎわいづくりのための地域イベントを開催し、若者を巻き込んでいけるイベントとなるよう検討していきたい。
- ・はにぼんプラザ（本庄市市民活動交流センター）には生涯学習機能、多世代交流機能、健康づくり・子育て・福祉支援機能、市民活動推進機能、防災機能などがあり、まちの拠点はこの場所ではないかと感じた。また、米子市には、このような市民の居場所が分散されているために今後、このような施設の建設を検討していくべきと感じた。
- ・本庄市は年に2回の祭りを夏、秋に実施しており、はにぼんプラザの屋外に提灯などの祭りで使用する物品が置かれていた。祭りを実施することは地域コミュニティが活発であり、本庄市は地域のつながりがとられており、防災力も強く団結している地域であると感じた。米子市も地域コミュニティが活発化できるようにしていくことが課題であり、このことがにぎわい創出にもつながっていくと感じる。

3 令和5年11月8日 視察先 埼玉県さいたま市

「DXの推進に係る行政サービスの向上・高度化について」

(1) 視察の目的

「全国自治体DX推進度ランキング2023」で第1位のさいたま市の取組を学ぶ。

(2) 視察（説明）要旨

さいたま市では、令和2年度より「さいたま市DX推進本部会議」を設置し、4つのワーキンググループ（窓口オンライン化、テレワーク、データ活用、業務効率化）の事業進捗状況の確認をしながら、DXを全庁的に推進している。事前質問に答える形で説明を受けた。

・DXの目的

「市民満足度の向上」で、その実現のために「DXにより目指すべき姿」を4点掲げている。さらに目指すべき姿実現のためのDX推進施策を、その目的別に八つに分類することとし、これを「さいたまデジタル八策」と呼んでいる。

・具体的な取組

現在、10区役所でキャッシュレス化が完了、マイナンバーカードの活用や、コネクテッドワンストップ（窓口パッケージ、おくやみコーナー、福祉の総合窓口）などを達成しており市民の満足度は高い。庁内の業務はRPAにより21課8,900時間削減を実現している。中でも、業務で蓄積した各種統計などの様々なデータを幅広い分野において施策の評価や検証、企画立案、業務改善などに活用する「さいたまシティスタット」が特徴的である。主に庁内の課題やニーズに沿ったデータを収集分析して、分析画面で可視化共有したものを蓄積している。効果としては、

①業務の効率化（通算業務削減時間31,994.4時間）

②情報提供手段の充実化（市民に27件の分析画面を公開、財政データの見える化）

③EBPM（救急出動データの分析を隊員の配置や運用に反映）

・課題

デジタルデバイド・・・民間企業や地域ICTリーダーによるスマホ教室や相談推進

職員の残業時間削減・・・将来の採用減を見据え、生成AIなどにも取り組む。

市民への周知啓発・・・理解の浸透にむけ広報。来庁時に「書かない窓口」を経験してもらい、できることを周知啓発する。

(3) 主な質疑応答

Q1. 地域ICTリーダーへの報酬について

A1. 1回3,000円

実証的に取り組んでいるものなど予算取れていないものはボランティア

大半は退職後の方、地域包括支援センター職員。平日勤務なので学生は少ない。

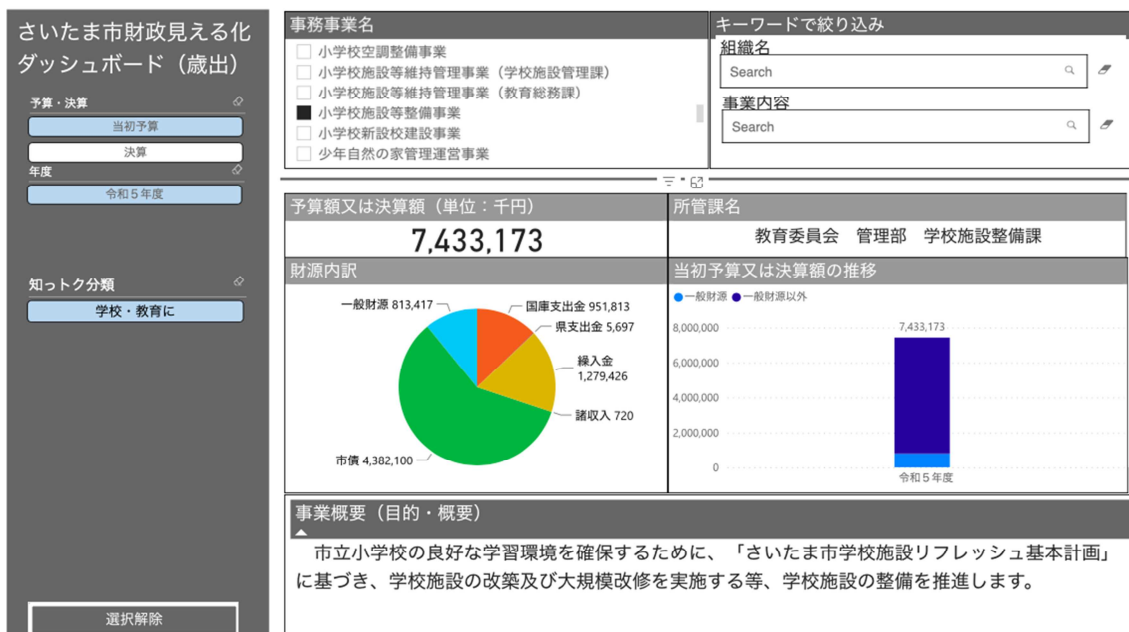
Q2. 外部のデジタル人材3名の登用方法について

A2. 特別職非常勤。週2回程度の報酬規模だが、実際はフレキシブルに対応していただいている。民間で勤務していた方、他団体などでアドバイザーの実績のある方などをお願いしている。自治体を掛け持ちされている方も多く、オンライン参加できると引き受けてもらやすい。

(4) 視察の（説明）要旨に対する考え方及び本市に参考となる点

さいたま市は埼玉県最大の都市で政令指定都市でもあるため、予算規模やマンパワーなどの違いから参考にならない面もある一方、何を目的として、どのような組織体制で進めて行くか、というような面については米子市でも取り入れることができると感じた。窓口のワンストップ化やRPAなど、すでに米子市でも取り組んでいるものもあり、米子市が大きく遅れているということではないが、「さいたまシティスタット」のようなデータの共有の仕組みそのものが業務の効率化につながるというのは特筆すべきことであり、米子市ではまだまだ取り組めていないことである。データの可視化により、議会对応においても、課題ごとのデータ収集分析や聞き取りの時間削減が見込まれる。議会としても、さらなるデータ活用の取組を求めている。

参考 さいたま市財政見える化ダッシュボード（さいたま市ホームページ掲載）



総務政策委員会行政視察行程表

◎参加者 8名〔委員 7名〕 渡辺委員長、吉岡副委員長、伊藤委員、稲田委員、国頭委員、津田委員、森谷委員 〔随行 1名〕 田中

月 日	行 程	宿泊地
11/6 (月)	9:00 10:15 10:43 11:37 12:05 12:19 12:46 13:05 13:25 米子空港 == 羽田空港 ** 羽田空港第1・第2 == 横浜駅 == 海老名駅 == 秦野駅 ターミナル(京急) ANA384便 京急空港線エアポート急行 相鉄本線快速 小田急小田原線快速急行	さいたま市内
	◎神奈川県秦野市行政視察 (午後2時00分ごろから1時間半程度) 〔調査項目〕 秦野市総合防災情報システムについて	
	15:55 17:05 17:23 17:47 秦野駅 ===== 新宿駅 ===== 浦和駅 (浦和駅周辺宿泊) 小田急小田原線快速急行 JR湘南新宿ライン快速	
11/7 (火)	10:03 11:13 浦和駅 ===== 本庄駅 JR快速アーバン	さいたま市内
	◎埼玉県本庄市行政視察 (午後1時ごろから1時間半程度) 〔調査項目〕 本庄駅北口周辺整備基本計画(「ウォーカブルなまちなか」)について ※最後に駅に向かう際に、現地視察(天候による)	
	15:33 16:33 本庄駅 ===== 浦和駅 (浦和駅周辺宿泊) JR湘南新宿ライン特別快速	
11/8 (水)	9:30 9:50 宿泊先 ** さいたま市役所 (徒歩)	
	◎埼玉県さいたま市行政視察 (午前10時00分ごろから1時間半程度) 〔調査項目〕 DXの推進に係る行政サービスの向上・高度化について	
	12:21 14:54 15:05 13:20 13:23 13:31 15:35 17:00 さいたま市役所 ** 浦和駅 == 品川駅 == 羽田空港第1・第2 ** 羽田空港 == 米子空港 (徒歩) ターミナル(京急) JR高崎線 京急本線特急 ANA385便	

旅費計算表

令和5年11月6日 ～ 令和5年11月8日 (2泊3日)

月日	区間	鉄道路線名	運賃	備考	急行料金		日当宿泊料		
					特別	新幹線	議員1,500円	甲 14,800円	乙 13,300円
11/6	米子空港～羽田空港	飛行機	32,780	スーパーバリュー 往復5%割引			1,500		13,300
(火)	羽田空港第1・第2ターミナル～横浜	私鉄	370				1,100		9,800
	横浜～海老名	私鉄	330						
	海老名～秦野	私鉄	300						
	(用務)								
	秦野～新宿	私鉄	700						
	新宿～浦和	私鉄	410						
11/7	浦和～本庄	JR	1,170				1,500		13,300
(水)	(用務)						1,100		9,800
	本庄～浦和	JR	1,170						
11/8	(用務)						1,500		
(木)	浦和～品川	JR	580				1,100		
	品川～羽田空港第1・第2ターミナル	私鉄	330						
	羽田空港～米子空港	飛行機		スーパーバリュー 往復5%割引					
計	議員旅費	69,240	38,140		0	0	4,500	0	26,600
	随行旅費	61,040	38,140		0	0	3,300	0	19,600

出席議員：渡辺委員長、吉岡副委員長、伊藤委員、国頭委員、津田委員、森谷委員

随行者：田中

委員	69,240	×6名＝	415,440
随行	61,040	×1名＝	61,040
			<u>476,480</u>

神奈川県秦野市・埼玉県本庄市・埼玉県さいたま市

総務政策委員会行政視察

旅費計算表

令和5年11月6日 ～ 令和5年11月8日 (2泊3日)

月日	区間	鉄道路線名	運賃	備考	急行料金		日当宿泊料		
					特別	新幹線	議員1,500円	甲 14,800円	乙 13,300円
11/6	米子空港～羽田空港	飛行機	16,430	スーパーバリュー			1,500		13,300
(火)	羽田空港第1・第2ターミナル～横浜	私鉄	370						
	横浜～海老名	私鉄	330						
	海老名～秦野	私鉄	300						
	(用務)								
	秦野～新宿	私鉄	700						
	新宿～浦和	私鉄	410						
11/7	浦和～本庄	JR	1,170				1,500		13,300
(水)	(用務)								
	本庄～浦和	JR	1,170						
11/8	(用務)						1,500		
(木)									
計	議員旅費	51,980	20,880		0	0	4,500	0	26,600

出席議員：稲田委員

11/9の議長公務のため、移動のための運賃、宿泊代は別の旅行依頼にて請求。

神奈川県秦野市・埼玉県本庄市・埼玉県さいたま市

総務政策委員会行政視察